

令和元年7月10日

千葉県農林総合研究センター長

## I 向こう1か月間の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また、予報の根拠の（+）は多発要因，（-）は少発要因であることを示している。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅，「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅，「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項	
イ ネ	いもち病 (穂いもち)	やや多	7月上旬発生量 葉いもち：やや少（-） 気象予報：気温低（+） 降水量並か多（+） 日照時間 少か並（+）	<ul style="list-style-type: none"> <li>葉いもちの発生しているほ場では、穂ばらみ期に治療効果のある薬剤で防除する。さらに多発する場合は穂揃期にも薬剤防除する。</li> <li>令和元年度病害虫発生予報第3号も参考にする。</li> </ul>	
	紋枯病	並	7月上旬発生量：並[発生なし] 気象予報：気温低（-） 降水量並か多（+）	<ul style="list-style-type: none"> <li>穂ばらみ期に発病株率15%以上の場合、薬剤防除する。</li> </ul>	
	ごま葉枯病	並	7月上旬発生量：やや多（+） 気象予報：気温低（-）	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生が多い場合は薬剤防除する。</li> </ul>	
	斑点米カメムシ類	大型のカメムシ類	並	7月上旬本田発生量：並 7月上旬雑草地発生量： やや多（+） 気象予報：降水量並か多（-）	<ul style="list-style-type: none"> <li>P5「これから注意を要する病害虫」を参照。</li> </ul>
		カスミカメムシ類	やや多	7月上旬本田発生量：並 7月上旬雑草地発生量： やや多（+） 気象予報：降水量並か多（-）	
		イネクロカメムシ	やや少	7月上旬発生量：並 6月予察灯誘殺数：少（-） 気象予報：降水量並か多（-）	<ul style="list-style-type: none"> <li>気温の高い日中は株元において薬剤がかかりにくいので、朝や夕方の散布が効果的である。</li> </ul>
		セジロウンカ	やや少	7月上旬発生量：やや少（-） 6月予察灯誘殺数：並 気象予報：降水量並か多（-）	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月中旬頃に株当たり10頭以上寄生していた場合には薬剤防除する。</li> </ul>

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イネ	ヒメトビウンカ	並	7月上旬発生量：少（－） 6月予察灯誘殺数：多（＋） 気象予報：降水量並か多（－）	<ul style="list-style-type: none"> <li>イネ縞葉枯病ウイルスを媒介する。</li> <li>周辺イネ科植物から6月上中旬頃本田に侵入し、産卵・増殖する。</li> <li>幼穂形成期を迎えていない水田でイネ縞葉枯病が多発している場合は、薬剤防除する。</li> </ul>
	ナカジロシタバ	やや少	7月上旬発生量：並 気象予報：気温低（－） 降水量並か多（－）	<ul style="list-style-type: none"> <li>早期発見に努め、多発ほ場では薬剤防除する。</li> </ul>
サツマイモ	イモキバガ	やや少	7月上旬発生量：並 気象予報：気温低（－） 降水量並か多（－）	
ラッカセイ	白絹病	並	7月上旬発生量：並 気象予報：気温低（－） 降水量並か多（＋）	<ul style="list-style-type: none"> <li>病株は周囲の表土と共に除去する。</li> <li>収穫前使用日数に注意し、薬剤防除する。</li> <li>P7「これから注意を要する病害虫」参照。</li> </ul>
	褐斑病	並	7月上旬発生量：並 気象予報：降水量並か多（＋）	<ul style="list-style-type: none"> <li>多発ほ場では薬剤防除する。</li> </ul>
秋冬ネギ	さび病	やや多	7月上旬発生量：並 気象予報：気温低（＋） 降水量並か多（＋）	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生初期から薬剤防除する。</li> </ul>
	ネギアザミウマ	並	7月上旬発生量：並 気象予報：気温低（－） 降水量並か多（－）	<ul style="list-style-type: none"> <li>高温乾燥期に多発しやすい。</li> <li>多発ほ場では、防除効果の持続性が期待できる粒剤の土壌施用と併せて、即効性が期待できる茎葉散布剤により、薬剤防除する。</li> </ul>
	ネギコガ	並	7月上旬発生量：並 気象予報：気温低（－） 降水量並か多（－）	<ul style="list-style-type: none"> <li>高温乾燥期に多発しやすい。</li> <li>幼虫は、葉内に侵入して食害するので、初期防除に努める。</li> </ul>
サトイモ	アブラムシ類	やや少	7月上旬発生量：並 気象予報：気温低（－） 降水量並か多（－）	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬剤防除は、葉裏にも十分かかるようにいねいに行う。</li> </ul>
	ハダニ類	やや少	7月上旬発生量：並 気象予報：気温低（－） 降水量並か多（－）	

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや多	6月フェロモントラップ誘殺数 : やや多 (+) 7月上旬発生量 秋冬ネギ: 並〔発生なし〕 サトイモ: 並 気象予報: 気温低 (-) 降水量並か多 (-)	<ul style="list-style-type: none"> <li>早期発見に努め、卵塊及び集団状態の幼虫を捕殺する。</li> <li>薬剤防除の場合、幼虫が大きくなると薬効が低下するので、幼虫が分散する前に行う。</li> </ul>
	オオタバコガ	やや多	6月フェロモントラップ誘殺数 : やや多 (+) 気象予報: 気温低 (-) 降水量並か多 (-)	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼虫は見つけ次第捕殺する。</li> <li>施設栽培では、開口部を防虫網で被覆することにより成虫の侵入防止を図る。</li> </ul>
ナシ	黒星病	並	6月下旬発生量: やや少 (-) 気象予報: 気温低 (+) 降水量並か多 (+)	<ul style="list-style-type: none"> <li>被害葉、被害果は伝染源となるので、ほ場外に持ち出し適切に処分する。</li> <li>気象条件に留意し、適期防除する。</li> </ul>
	シンクイムシ類	並	6月下旬発生量: 並 6月フェロモントラップ誘殺数: 並 気象予報: 気温低 (-) 降水量並か多 (-)	<ul style="list-style-type: none"> <li>加害が見られる場合は、収穫前使用日数に注意し、薬剤防除する。</li> </ul>
	ハマキムシ類	並	6月下旬発生量: 並 6月フェロモントラップ誘殺数 : やや多 (+) 気象予報: 気温低 (-) 降水量並か多 (-)	
	ハダニ類	並	6月下旬発生量: 並 気象予報: 気温低 (-) 降水量並か多 (-)	<ul style="list-style-type: none"> <li>増殖が速いので、発生初期から防除する。</li> <li>殺ダニ剤に対する抵抗性の発達を助長しないよう、同一系統の剤は年1回の使用とする。</li> </ul>
温州ミカン	ミカンハダニ	少	6月下旬発生量: 少 (-) 気象予報: 気温低 (-) 降水量並か多 (-)	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏期(6~8月)防除の判断は寄生葉率で30%を目安とする。</li> </ul>



## Ⅱ これから注意を要する病害虫

### 斑点米カメムシ類

6月下旬～7月上旬に行った県内 70 地点の水田周辺の雑草地すくい取り調査では、県全体でみると、アカスジカスミカメ（写真1）の平均捕獲数は 22.7 頭（平年 11.9 頭）、アカヒゲホソミドリカスミカメ（写真2）の平均捕獲数は 3.3 頭（平年 2.8 頭）、大型の斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ等）の平均捕獲数は 2.1 頭（平年 1.5 頭）であった。

アカスジカスミカメが平年よりやや多、アカヒゲホソミドリカスミカメは並の発生だった。地域別の平均捕獲数でみると、アカスジカスミカメは特に山武及び印旛で、アカヒゲホソミドリカスミカメは東葛飾及び印旛で平年より多かった（図1，2）。

斑点米カメムシ類は、水稻が出穂を始めると水田に侵入し穂を加害するが、侵入量はカメムシ類の生息地である周辺雑草地での発生量や、出穂期の早晚等にも影響を受けるため、平均捕獲数の少ない地域においても出穂期の侵入量に注意する必要がある。

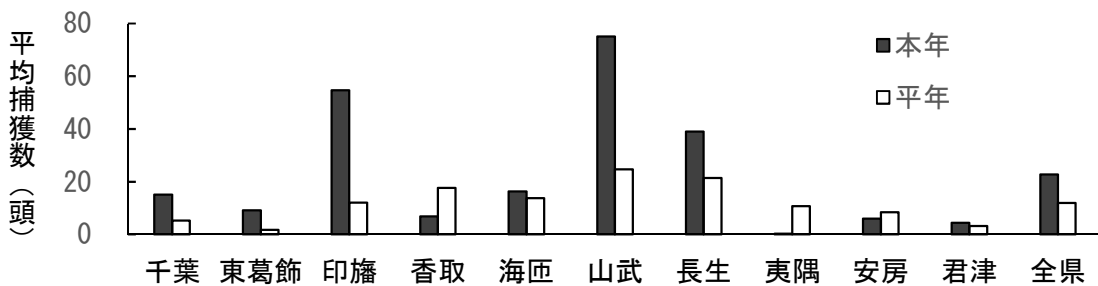


図1 地域別のアカスジカスミカメの平均捕獲数（雑草地すくい取り調査）

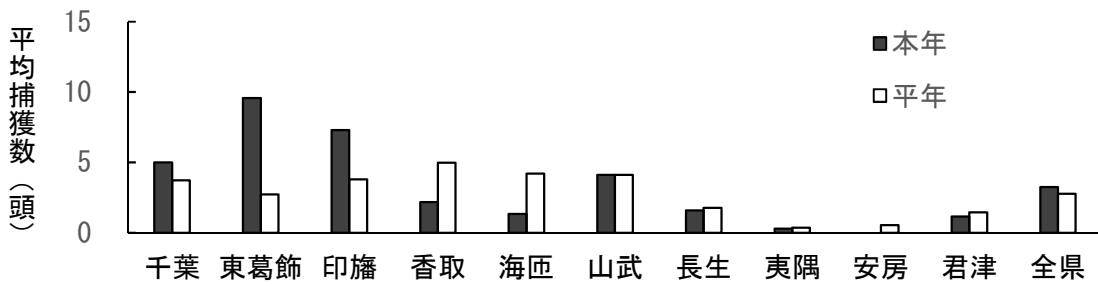


図2 地域別のアカヒゲホソミドリカスミカメの平均捕獲数（雑草地すくい取り調査）



写真1 アカスジカスミカメ  
(体長：5～6mm)



写真2 アカヒゲホソミドリカスミカメ  
(体長：5～6mm)

<防除上の注意事項>

1 カスミカメムシ類（アカスジカスミカメ，アカヒゲホソミドリカスミカメ）

アカスジカスミカメは，雑草地のイネ科植物（イタリアンライグラス，ヒエ等）で産卵，増殖し，水田内ではほとんど増殖しない。出穂期以降，雑草地から水田内に侵入した成幼虫が穂を加害して斑点米を発生させる。「あきたこまち」など登熟中に割れ粃が生じやすい品種では，粃が開いたところから吸汁被害を受けやすいので注意する。

- (1) 出穂時期の草刈りは雑草地から水田内へカスミカメムシ類を追い込むため，水田周辺の雑草除去は出穂2週間前までに行う。適期を逃した場合は本田防除を徹底する。
- (2) 水田内にヒエ（イネ科）やホタルイ（カヤツリグサ科）等の雑草が多発するとカスミカメムシ類を水田へ誘引し，増殖場所となるため，雑草防除を徹底する。
- (3) 薬剤防除は，飛来成虫を対象に穂揃期ごろに行う。出穂後の防除のため，薬剤の選定や使用にあたっては収穫前使用日数に注意する（表）。

2 大型カメムシ類（クモヘリカメムシ，ホソハリカメムシ等）

水田周辺に生息していた成虫が出穂後の水田に侵入して水田内で産卵し，ふ化した幼虫が乳熟期以降に穂を吸汁加害して斑点米が発生する。

- (1) 防除適期は成虫飛来期の穂揃期と幼虫発生初期の出穂 15 日後ごろである。出穂後の防除のため，薬剤の選定や使用にあたっては収穫前使用日数に注意する（表）。
- (2) 大型カメムシ類は，出穂の早い水田に多数飛来する傾向がある。また，出穂期が特に遅い水田も集中的に加害されやすいため注意する。

3 その他注意事項

航空防除実施地域においても，散布後に侵入した成虫やふ化した幼虫による被害がおこる場合がある。イネの出穂状況や斑点米カメムシ類の発生状況によっては地上防除を追加実施する（表）。

表 斑点米カメムシ類の主な防除薬剤

薬剤名 注1)	10a 当たり使用量	使用時期/使用回数
<b>有機リン系 (1B)</b> エルサン粉剤 3DL スミチオン乳剤 スミチオン粉剤 3DL	3 kg 1,000 倍/60~150ℓ 3~4 kg	収穫 7 日前まで/2 回 収穫 21 日前まで/2 回 収穫 21 日前まで/2 回 注2)
<b>合成ピレスロイド系 (3A)</b> トレボン粉剤 DL トレボン MC MR. ジョーカー EW	3~4 kg 2,000 倍/60~150ℓ 2,000 倍/60~150ℓ	収穫 7 日前まで/3 回 収穫 14 日前まで/3 回 収穫 14 日前まで/2 回
<b>ネオニコチノイド系 (4A)</b> ベストガード粉剤 DL スタークル/アルバリン顆粒水溶剤 スタークル/アルバリン粉剤 DL ダントツ水溶剤 ダントツ粉剤 DL アクタラフロアブル	4 kg 2,000 倍/60~150ℓ 3 kg 4,000 倍/60~150ℓ 3~4 kg 5,000 倍/100~150ℓ	収穫 14 日前まで/4 回 収穫 7 日前まで/3 回 収穫 7 日前まで/3 回 収穫 7 日前まで/3 回 収穫 7 日前まで/3 回 収穫 21 日前まで/2 回
<b>フェニルピラゾール系 (2B)</b> キラップフロアブル キラップ粉剤 DL	1,000~2,000 倍/60~200ℓ 3~4 kg	収穫 14 日前まで/2 回 収穫 14 日前まで/2 回

注1) 薬剤名欄の()内は IRAC コードを示す

2) スミチオン粉剤 3DL の出穂前散布は 1 回まで

### ラッカセイ白絹病

白絹病は多犯性の土壌病害で、ラッカセイの他に多くの作物に被害を及ぼす。土中の菌糸や菌核で越冬し、7～8月の高温時に降雨があると菌核から菌糸を生じて地際の茎を侵す。被害部には絹糸状の菌糸を生じ（写真1）、被害が進むと株全体が萎凋し（写真2）、枯死する。菌糸の発育適温は32～33℃であり、最高は38℃、最低は13℃である。

8月下旬ころから直径1～2mmの褐色または暗褐色の菌核を形成する。菌核は土壌中で5～6年間は生存し、翌年の伝染源となるので、被害を見つけた場合は周囲の表土と共に除去する。



写真1 茎の地際の菌糸



写真2 茎の萎れ

#### <防除法>

##### 耕種的防除

数年のローテーションで輪作を実施する。このとき、イネ科作物を加えると良い。

##### 薬剤防除

フロンサイド粉剤（収穫45日前まで／1回）を10a当たり20kg株元散布する。

## 参考資料

### ○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（水稲・サツマイモ・ラッカセイ・サトイモ・秋冬ネギ：7月上旬，果樹：6月下旬）

作物名 (調査地域)	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ (県内全域)	いもち病(葉いもち)	発病度	0.38	0.87	0.63	
	紋枯病	発病度	0.00	0.01	0.06	
	ごま葉枯病	発病度	0.41	0.31	0.22	
	イネクロカメムシ	25株当たり寄生成幼虫数	0.21	0.91	0.09	
	フタオビコヤガ	25株当たり寄生幼虫蛹数	0.01	0.03	0.01	
	ニカメイガ	被害株率(%)	0.00	0.01	0.00	
	イチモンジセセリ	25株当たり被害包数	0.09	0.21	0.18	
	イネシンガレセンチュウ	被害株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	セジロウンカ	本田すくい取り捕獲虫数 注1)	0.01	0.69	0.13	
	トビロウンカ	本田すくい取り捕獲虫数	0.00	0.00	0.00	
	ヒメトビウンカ	本田すくい取り捕獲虫数	0.25	0.66	0.36	
	ツマグロヨコバイ	本田すくい取り捕獲虫数	0.54	0.55	0.12	
	フタオビコヤガ	本田すくい取り捕獲虫数	0.19	0.21	0.00	
	コバネイナゴ	本田すくい取り捕獲虫数	2.21	2.63	2.40	
	クモヘリカメムシ	雑草地すくい取り捕獲虫数 注2)	0.03	0.31	0.16	
	ホソハリカメムシ	雑草地すくい取り捕獲虫数	1.50	0.87	0.40	
	イネカメムシ	雑草地すくい取り捕獲虫数	0.01	0.03	0.03	
	シラホシカメムシ類	雑草地すくい取り捕獲虫数	0.48	0.23	0.30	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	雑草地すくい取り捕獲虫数	3.25	2.76	2.48	
	アカスジカスミカメ	雑草地すくい取り捕獲虫数	22.70	11.91	5.98	
サツマイモ (印旛・香取)	ナカジロシタバ	寄生幼虫数	0.20	0.15	0.00	
	イモキバガ	被害葉率(%)	0.60	3.75	1.40	
ラッカセイ (千葉・君津)	そうか病	発病度	0.00	0.00	0.00	
	褐斑病	発病度	3.50	3.81	6.60	
	黒渋病	発病度	0.00	0.03	0.00	
	白絹病	発病株率	0.10	0.09	0.00	
サトイモ (印旛 香取 君津)	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率(%)	0.00	0.06	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生葉率(%)	63.70	60.20	78.40	
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率(%)	36.16	30.33	42.40	
秋冬ネギ (長生・山武)	黒斑病	発病度	0.00	0.96	0.40	
	さび病	発病度	2.63	1.85	0.00	
	べと病	発病株率(%)	0.00	0.80	0.00	
	ネギアザミウマ	被害度	7.28	10.74	13.60	
	シロイチモジヨトウ	被害株率(%)	0.00	0.00	0.00	
	ネギコガ	被害株率(%)	0.40	1.05	1.20	
	ネギハモグリバエ	被害度	0.20	2.85	3.70	
ナシ (県内全域)	黒星病	発病葉率(%)	1.05	1.94	1.03	
	赤星病	発病葉率(%)	0.18	0.54	0.45	
	シンクイムシ類	被害果率(%)	0.00	0.01	0.00	
	ハマキムシ類	被害果率(%)	0.00	0.02	0.00	
	ハダニ類	雌成虫寄生葉率(%)	0.00	0.03	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率(%)	1.61	11.67	0.89	
	ニセナシサビダニ	被害新梢率(%)	0.00	0.76	0.39	
温州ミカン (安房)	そうか病	果実発病度	0.00	0.07	0.00	
	かいよう病	果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	黒点病	果実発病度	0.00	0.00	0.00	
	ヤノネカイガラムシ	成幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.06	0.00	
	ミカンハダニ	雌成虫寄生葉率(%)	0.00	7.37	0.80	
	アブラムシ類	成幼虫寄生新梢率(%)	0.00	1.68	0.00	
	ミカンハモグリガ	幼虫寄生葉率(%)	0.00	0.61	0.00	



トラップ月間誘殺数（6月）

区分	調査害虫名	トラップ設置場所	誘殺数（頭）			備考
			本年値	平年値	前年値	
水稲予察灯	イネミズゾウムシ	千葉, 香取, 安房	2.0	2.0	3.7	
	セジロウンカ	〃	1.0	1.3	1.0	
	トビイロウンカ	〃	0.0	0.0	0.0	
	ヒメトビウンカ	〃	4.7	1.9	2.3	
	ツマグロヨコバイ	〃	4.3	17.6	3.3	
	フタオビコヤガ	〃	2.0	1.8	2.0	
	イネヨトウ	〃	8.3	3.1	1.7	
	ニカメイガ	〃	0.3	0.4	2.3	
	コブノメイガ	〃	0.0	0.0	0.0	
	イネクロカメムシ	〃	1.0	6.1	1.3	
	クモヘリカメムシ	〃	0.7	0.0	0.0	
	ホソハリカメムシ	〃	0.0	0.0	0.0	
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	〃	14.7	17.7	6.3	
	アカスジカスミカメ	〃	32.0	24.2	13.3	
(果樹等カメムシ類)	チャバネアオカメムシ	〃	2.0	1.8	0.7	
	クサギカメムシ	〃	0.0	0.2	0.3	
	ツヤアオカメムシ	〃	2.3	1.0	0.7	
	アオクサカメムシ	〃	0.0	0.2	0.0	
	イチモンジカメムシ	〃	0.0	0.0	0.0	
(コガネムシ類)	アカビロウドコガネ	〃	4.3	7.8	14.3	
	オオビロウドコガネ	〃	7.3	10.8	6.3	
	ヒメコガネ	〃	3.0	3.4	5.3	
	ドウガネブイブイ	〃	2.0	1.3	2.3	
	オオクロコガネ	〃	17.0	17.5	37.0	
果樹予察灯	チャバネアオカメムシ	安房	2.0	2.4	1.0	
	クサギカメムシ	〃	2.0	2.3	4.0	
	ツヤアオカメムシ	〃	6.0	6.0	12.0	
性フェロモン	ドウガネブイブイ	印旛, 香取	74.8	80.8	11.3	
	ヒメコガネ	印旛, 香取	0.3	2.2	0.0	
	コナガ	海匝, 安房	138.3	176.9	212.3	
	ハスモンヨトウ	県内全域	183.6	98.1	56.9	
	シロイチモジヨトウ	県内全域	6.9	4.8	12.1	
	オオタバコガ	県内全域	37.6	20.9	13.0	
	タバコガ	県内全域	17.3	14.5	3.2	
	ネギコガ	東葛飾, 香取	49.5	16.9	84.0	
	ナシヒメシンクイ	東葛飾, 印旛, 香取	29.0	23.0	11.9	
	モモシンクイガ	東葛飾, 印旛, 香取	0.0	0.4	1.3	
	チャハマキ	印旛, 香取	14.1	6.6	7.1	
	チャノコカクモンハマキ	印旛, 香取	49.4	38.4	19.0	
	チャバネアオカメムシ集合フェロモン	チャバネアオカメムシ	千葉, 印旛, 香取, 安房	252.8	276.2	146.1
ツヤアオカメムシ		〃	5.5	11.6	19.8	
クサギカメムシ		〃	28.5	22.4	14.6	
マルボシヒラタヤドリバエ (天敵)		〃	85.0	43.8	42.5	

注1) 調査ほ場で捕虫網を20回振り, すくい取った成幼虫の平均値

注2) 調査ほ場周辺の畦畔や路肩などの雑草地で捕虫網を20回振り, すくい取った成幼虫の平均値

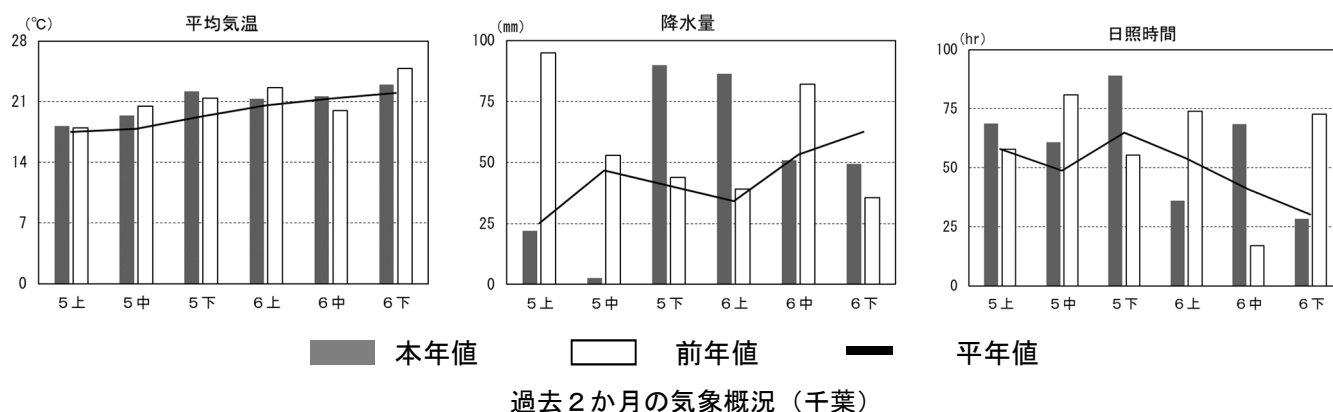
## ○気象予報

7月4日気象庁地球環境・海洋部発表  
関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	60	30	10
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

向こう1か月間の各気象要素の平年値  
(7月10日～8月7日銚子地方気象台資料)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	25.9	23.9	25.5
降水量(mm)	106.6	100.2	140.8
日照時間(hr)	160.4	178.9	181.3



## 農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を使用したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いきれがないようきれいに洗っておきましょう。

・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

・次回の発行予定は8月8日です。なお、注意報等の臨時情報は逐次発行されます。

・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

[https://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](https://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)

問い合わせ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0006 千葉市緑区大膳野町 804

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail [cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp](mailto:cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp)